



しんぐう子育てサポートセンター

# よりよい親子関係のために やる気を作る言葉かけ

■問い合わせ先

しんぐう子育てサポートセンター  
(シーオーレ新宮子育て支援課)  
☎0663-22695(直)

「また散らかしてー片づけなさいー」「早く宿題しなさいー」など、口を揃えて子どもに話しかけると、叱ることで子どものやる気をそぎ、場合によっては反抗的な態度を生む、そんな悪循環に陥ることもよくあります。

よりよい親子関係を作るためには「ほめる」「認める」ということがとても大切になってきます。ほめるというのは何も「すごいねー」「やってくれたねー」というようなことばかりではありません。「行動を褒める言葉」です。



- 「ご飯の前に手を洗えたね」
- 「今から宿題するんだね」
- 「お茶碗片づけてくれてありがとう」
- 「もう学校に行く準備が終わったんだね」
- 「ちゃんとお約束の時間に帰ってきて、ママうれしいよ」

## 注目が持つパワー

行動を言葉にすることで、子どもは「パパやママは私のことをちゃんと見ていてくれるんだー」と感じます。自分に注目してもらえているという注目が伝わるのです。

例えば、パパやママも髪を切ったことに気づいて「髪、切りましたね」似合いますよ」と声をかけてもらおうといううれしい気持ちになりますよ。

これが注目が持つパワーです。大人でも子どもでも「自分の行動を見ていてくれる」「ほめてもらえる」ということは、とてもやる気が出るものです。子どもとの関係にちょっと煮詰まっているな、と感じたときは、ぜひ取り入れてみてください。

「手を伝え方を知りたい」「子どもがほめるような行動をしてくれない」などのお悩みがありましたら、しんぐう子育てサポートセンターに気軽に相談ください。よりよい親子関係になる方法を一緒に考えましょう。



## 三月間町民のつどい

毎年7月は「同和問題啓発」「社会を明るくする運動」「青少年の非行・被害防止」の3つの強調月間です。

町では7月2日にそぴあしんぐうで「三月間町民のつどい」を3年ぶりに開催しました。

今年は石井眞澄さん、千晶さんを講師に招き、部落差別の現状や、差別をどのように乗り越えたのかなどについてお話していただきました。

部落差別は特に見えにくい、気づきにくい差別で、いまだに存在しており、差別の解消には何よりも学びが大切であることというお

話は深く考えさせられました。来場者からは「学ぶ機会をつくることはとても大切で、大人も正しいことを知ることが大切」「自分には関係ないと人ごとに思わないことが大事だと改めて気づいた」などの感想が寄せられました。

また、そぴあしんぐうでは「ネット社会と差別～理解するためのブックガイド～」というテーマで7月の間、パネル展を開催しています。

